

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立城東台小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒709-0624
岡山県岡山市東区城東台西3丁目6番3号
E-mail jotodais@city-okayama.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 140名 女子 133名 合計 273名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「感性を磨き、理性と体を鍛え、余念なからむ～未来へつながる子ども育成～」を学校理念として、ESDを「地域を愛し人と関わる児童の育成」と捉え、ESDの実践を通して「協働して解決していこうとする態度」「問題を解決する力」「自己の生き方を考える力」の育成を目標とした。

具体的には、地域との交流、福祉、防災、社会貢献を柱に、①地域との交流に係わる活動、②地域と福祉に係わる学習、③地域と防災に係わる学習、④地域と社会貢献に係わる学習を行った。

① 地域との交流に係わる活動

1～3年生までの活動では、地域の方とのふれあいに重点を置いて取り組んだ。各学年の発達段階に合った活動を考え、児童の興味・関心から始まり、PDCAサイクルを意識しながら行った。本校のテーマである「地域を愛し人と関わる児童の育成」の土台作りに努めた。

② 地域と福祉に係わる学習

4年生では、バリアフリーやUDの知識の習得や体験などを中心に学習を進めていった。学習したことで、新しい見方や考え方が児童の中に芽生え、その力を活用し、地域の中にある課題について考え、それを解決するための提案を地域の方や保護者に向けて行った。

③ 地域と防災に係わる学習

5年生では、防災に対する知識の習得や体験活動、講話などを中心に学習を進めていった。学習したことを生かし、自分たちが住む地域の防犯意識の向上に努めるため、自分たちの考えを発信する場を設けた。ただ発信だけではなく、その提案もとに様々な立場の方と意見交流を行った。

④ 地域と社会貢献に係わる学習

6年生では、自分の興味のある職業についてキャリア教育を行った。家族の職業について調べたり、修学旅行の行程表を考える活動などの模擬体験活動(旅行代理店)をしたりなどを中心に学習を進めた。その後、自分の興味のある職業の特性について考え、その特性を生かした社会貢献活動を考え、地域の方や保護者に提案した。その提案をもとにセッションを行い、自分たちの提案を深めていった。



① だんじり祭り(1年)



② 地域と福祉(4年)



③ 地域と防災(5年)



④ 地域と社会貢献(6年)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

第1学年(35人)

地域の人との体験交流プロジェクト「伝統に親しもう」

活動期間：平成29年9月～平成30年3月

内容：10月に地域住民でつくられた「だんじり保存会」の方をお招きして、だんじり祭りを行った。だんじりの歴史について話を聞いたり、一緒にだんじりをひいたり、自分たちで作ったお神輿を担いだりした。

1月には「ALL J セッション」にて、保護者の方や地域の方と、昔遊びを楽しむ会を行い、様々な昔遊びを教えていただいた。

第2学年(40人)

地域の人との体験交流プロジェクト「2年生フェスティバルに向けて」

活動期間：平成29年11月～平成30年2月

内容：生活科で、1年生に楽しんでもらえる遊びを考えてきた。実際に作ってみたり、遊んでみたりして工夫を重ねてきた。1月の「ALL J セッション」では、2年生フェスティバルに出すお店が1年生にとって本当に楽しめるものか、保護者の方や地域の方に実際に体験していただいて、意見を聞く機会とした。その意見を参考にして、さらに楽しめる遊びを再考した。

第3学年(44人)

地域の人との体験交流プロジェクト「世界を知ろう」

活動期間：平成29年11月～平成30年2月

内容：児童が興味をもった外国について、図書館の本を使ったり、インターネットを使ったりして調べ学習を行った。その国の特徴や、国旗にはその国の思いが込められていることに気づき、世界の国カルタを作る活動を行った。作ったカルタについては、1月の「ALL J セッション」で地域の方や保護者の方と一緒に楽しんだ。遊びを通して、ふれあいを大切にしつつ、大人の意見を受け入れる機会としても捉え、自分たちのカルタを改良する次の活動へとつなげていった。

第4学年(48人)

地域貢献：生き方を考えるプロジェクト「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」

活動期間：平成29年5月～平成30年1月

内容：活動前半は、国語科や総合的な学習の時間と関連させながら、バリアフリーやユニバーサルデザインについて調べ学習を行ったり、体験活動(車いす、アイマスク、盲導犬、点字)を取り入れたりした。また、講師を呼んで話を聞いたりする中で、福祉についての自分たちの考えを話し合い、わかったことなどを中心に話し合った。

活動後半では、学校だけでなく地域の現状をどのようにすればみんなが暮らしやすくなるかを、ユニバーサルデザインの観点で話し合った。自分たちの考えをまとめていき、1月の「ALL J セッション」では提案をし、地域の方、保護者の方と意見交流を図った。

第5学年(56人)

地域貢献：みんなで守ろう!わたしたちの城東台

活動期間：平成29年4月～平成30年1月

内容：1学期前半は、さまざまな自然災害についてインターネットや調べ、災害の仕組みや恐ろしさを知り、画用紙にまとめ意見交換をした。1学期後半は、「地震災害」にしぼり、起震車体験を通して恐ろしさを知った。また、地震災害における家庭での備えについてのアンケート調査をして、そこから見えてきた問題点について画用紙にまとめ家庭に伝えた。2学期前半は、地震が起きる前、起きたとき、起きた後にはどのような問題が起きるのかを調べ、その中から「明かり問題」「トイレ・

水問題」「避難所での生活問題」「救命法について」「食糧問題」の5つの柱を選択し、地域の方とともに体験した。2学期後半から3学期にかけて、体験したことから学んだことや考えたことを画用紙やパワーポイントにまとめ、「ALL Jセッション」では報告をするとともに、「地域防災」について意見交換をした。

第6学年

「考えよう！創り出そう！！オリジナル修学旅行！！」

活動期間：平成29年5月～平成29年10月

「ドリームカムプロジェクト(キャリア教育)」

活動期間：平成29年11月～平成30年1月

内容：・1学期には、【お金・時間・修学旅行のめあて】の3観点を意識して、今までの修学旅行について調べたり、自分たちが行ってみたい場所について話し合ったりした。また、自分たちとは違う立場の人(学校の先生、地域の方)からも修学旅行の話聞く機会を設け、修学旅行の楽しさについて思いを深めていった。その思いをもとに、グループに分かれ修学旅行の行程表を作った。その行程表を保護者の方に提案することで、自分たちの考えを伝えることができた。

2学期には、自分たちの行く修学旅行のパンフレットを作り、5年生に説明をした。また、学校間交流で新居浜市立金栄小学校を訪問し、修学旅行をテーマに意見の交流を図った。

- ・2学期後半から、3学期にかけて、キャリア教育を行った。児童が興味をもった仕事について調べ学習を行ったり、様々な職業の方からお話を聞いたりする機会を設けた。その仕事のもつ特性や他の仕事の関わりを中心に地域(城東台, 市, 県)に対してできることを仕事という観点から考えていった。その考えを1月の「ALL J セッション」にて保護者の方や地域の方に提案し、意見交流する機会を設けた。

ア. 活動分野(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育(GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(キャリア教育)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間(複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
--	--

<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none"> ・岡山防災ポータル ・13歳のハローワーク
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>本校では、教育目標「感性を磨き 理性と体を鍛え 余念なからむ」を中心に、地域の環境や人材を生かし、地域を愛し人と関わる児童を育成するを指導の重点として教育課程に位置付けている。また、総合的な学習の時間との連携を考え、本校独自の簡易な指導書を各学年で作成した。その際に、地域の人との関わりを本校の指導の軸として考え、各学年に合った学習計画（ふれあい、セッションなど）を取り入れている。</p> <p>児童の評価も ESD で重視する能力・態度を総合的な学習の時間との関連を考え、「協力して解決していこうとする態度」「問題を解決する力」「自己の生き方を考える力」とし、7つの重視する能力・態度との関係性を見直した。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<p>上記に述べたように各学年の発達段階に応じた学習計画を、簡易な指導書としてまとめ、指導が短絡的なものにならないように取り組んでいる。また、校内研修において、各学年の学習内容や地域の方との関わりの情報共有する場を設け、系統的な学びになるように工夫した。児童の学びが、学校内だけで留まることのないように、ALL Jセッションという学校行事を今年度より初め、外部発信の場も設けるようにした。</p>
--

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価として教育に関する総合調査を保護者・地域の方を対象に行った。「学校・家庭・地域が連携し、子どもの教育にあっている」という項目において90%以上の方が肯定的な回答をしている。来年度も継続して活動を行うとともに、10%未満の否定的な回答の方にも焦点をあて、今年度の活動を基にしたより地域に根差した学習活動を構築していく必要があると考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

児童の活動の成果の発表の場を学校行事に位置付けた。下学年では、地域の方とのふれあいを大切に考え、児童の考えた活動を一緒にすることを発信の取組と捉えた。上学年では、地域の現状を知り、そこから自分たちに何ができるのかを考え、その提案を発信しセッションを行った。どちらの活動でも、課題を見つける力や自分の言葉で表現する力、コミュニケーション力の向上が見られた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

今年度関わった諸団体の情報（団体名・連絡先・活動時期など）を、各学年の指導書の中に明記するようにした。また、本校で最も重視している地域の方との関わりについても同様に指導書の中に明記するとともに、教職員で共通理解を図れるように、地域団体や個人名の載った一覧表を作成した。来年度以降は、児童の学びがさらに高まるように、他団体との連携をより密にしていく必要があると考える。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

昨年度に引き続き、新居浜市立金栄小学校との交流を行った。今年度は、スカイプでの交流と金栄小学校を訪問した。スカイプの交流で、6年生として取り組んできた学校行事や授業のことについて情報交換をした。金栄小学校を訪問した際には、修学旅行をテーマに意見交流を行った。自分たちが行程表を作ってきたねらいや住む地域によって修学旅行の行き先が違うことを話し合った。発表形式ではなく、各グループで自由に話すことにより、コミュニケーションにおける対応力が向上したように感じた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

今年度より学校行事の中に児童の発信の機会を設けることで、児童のコミュニケーション力の向上が見られた。同学年の児童だけではなく、地域の方や保護者など立場の違う人とコミュニケーションをすることで、学びが広くなり、児童の考えが深まっていった。また、児童を中心としたセッションの場を通して、保護者と地域の方とのコミュニケーションの場ともなった。来年度以降も継続して行うことにより、地域活性化につながればと考える。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

第1学年 地域の人との体験交流プロジェクト「伝統に親しもう」
第2学年 地域の人との体験交流プロジェクト「2年生フェスティバルに向けて」
第3学年 地域の人との体験交流プロジェクト「世界を知ろう」
第4学年 生き方を考えるプロジェクト「バリアフリー・ユニバーサルデザイン」
第5学年 「みんなで守ろう!わたしたちの城東台」
第6学年 「考えよう!創り出そう!!オリジナル修学旅行!!!」
「ドリームカムプロジェクト(キャリア教育)」

30年度も今年度同様の活動計画を予定している。しかし、今年度の学習と同じままでは、児童の学びに連続性をもたせることができないと考える。そこで、今年度の活動+αが必要になってくる。児童の興味・関心や地域の方の願いなど各学年に応じた活動計画を積み重ねていきたい。